

A区分・B区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術 共通)

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	メディア芸術	種目	映像
----	--------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじんこどもえいがきょうしつ 一般社団法人こども映画教室	団体ウェブサイトURL https://www.kodomoeiga.com	
代表者職・氏名	代表理事 土肥悦子		
制作団体所在地	〒 150-0036 最寄り駅(バス停) 渋谷駅		
	東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F		
電話番号	050-3188-1549		
ふりがな 公演団体名	こどもえいがきょうしつ こども映画教室	団体ウェブサイトURL https://www.kodomoeiga.com	
代表者職・氏名	代表理事 土肥悦子		
公演団体所在地	〒 150-0036 最寄り駅(バス停) 渋谷駅		
	東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F		
制作団体 設立年月	2013年4月(2019年1月一般社団法人化)		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	土肥悦子(代表理事)・諏訪敦彦(専務理事)・藤岡朝子(理事)・原悟(理事)/林知一(理事)	団体社員:土肥悦子・諏訪敦彦 従業員(事務局):浅見孟 団体社員加入条件 社員総会での協議の上、加入	
事務体制 (専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務担当者置く	本事業担当者名	浅見孟
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	土肥悦子

<p>制作団体沿革</p>	<p>2004年 金沢コミュニティシネマが主催(金沢21世紀美術館共同主催)として、前身となる「こども映画教室」を石川県金沢市が拠点として開催(以降毎年開催)</p> <p>2013年 任意団体「こども映画教室」として、東京都を拠点に活動開始。2013年から2018年までの6年間で40回の映画に関するワークショップを行った。活動地域は、東京・横浜・川崎・福島・弘前・高崎・上田・豊田・奈良などに広がっている。</p> <p>2015年 上映会およびシンポジウム「こどもが映画と出会うとき」を主催(以降毎年開催)</p> <p>2017年 フランスのシネマテーク・フランセーズが主催する教育プログラム「Le Cinéma, cent ans de jeunesse (映画、100歳の青春)」に、世界で15カ国目の参加国、そして日本初のコーディネーターとして参加。</p> <p>2019年 「一般社団法人こども映画教室」として法人化。</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<p>【別添シート】(1)参照</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－」にて特別支援学級の児童と普通学級の児童混合でワークショップをおこない、その後も毎年巡回公演において、そのように普通学級との混合で実施している。特に学校から「いつも登校できなかつたり、学級に入れない子がこの公演では一緒に楽しむことができた、と報告をいただいた。</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=WX7_y60cZml https://www.kodomoeiga.com/2019</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 こども映画教室 】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	「映画のなかに入ろう！」 ～こどもたちが映画に出演！撮影や編集の実演と映画鑑賞～			
プログラム全体の流れ	【プログラムの構成】			
		ワークショップ1回 → メインプログラム		
		ワークショップ2回 → メインプログラム		
	ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ			
	メインプログラム → ワークショップ2回			
	○	メインプログラム → ワークショップ1回		
	【全体の流れ】			
	【別添シート】(2)参照			
	合計 180～225 分			
作品(コンテンツ) 選択理由	『キートンの探偵学入門』は45分の短編作品ということで、1時限が45分～50分の単位である学校での上映に最適であると考え。映画館で雑用兼映写技師として働きつつ探偵を目指すキートンが仕事に居眠りした拍子に上映中の映画のなかへ入り込んでしまうという斬新なストーリー。チャップリンと並び称される喜劇王キートンが現実の世界と映画の世界を自由に行き来しながら、超絶アクロバティックな身体能力で息をもちかせぬアクションシーンを繰り広げ、大人も子どももスクリーンに釘付けになる。一方で映画のなかに入っていくという誰もが持つ願望をそのまま映像化したトリック撮影は、映画ならではの楽しさを十二分に味わえる作品。			
著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	『キートンの探偵学入門』
	該当事項がある場合	権利者名 (株)ダッサイ・フィルムズ	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済

指導体制	別紙「【A区分_映画実演】出演者名簿」参照				
従事予定者数 (1回あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	上記指導者を含め、14名 (うち、ドライバー2名)	運搬	積載量: 1 t	車長: 4.265 m	台数: 2 台
児童・生徒の 参加可能人数	メインプログラム	100名～500名想定 (壇上で出演することも10人ほどを想定)			
	ワークショップ	100名～500名想定			
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月
	12日	10日	4日	10日	12日
	11月	12月	1月	計	81日
	10日	12日	11日		
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				
実施にあたっての会場条件および学校側が必要な準備等 ※採択決定後、採択団体へ学校側に提示する条件の確認書の	【メインプログラム】			【ワークショップ】	
	会場: 体育館の舞台上で演技をするスペースと持ち込みスクリーンなど上映・音響機材を設置し、映像を鑑賞できる環境、かつ参加することもたちが座れるスペースが確保できること。 また、学校備品である机・イス・教卓などを適宜、体育館に移動。 また、日中でもカーテン、暗幕などで会場が暗くできること。 準備物: マイク等の音響設備			会場: 体育館、視聴覚室等、常設スクリーンまたは持ち込みスクリーンなど上映・音響機材を設置し、映像を鑑賞できる環境、かつ参加することもたちが座れるスペースが確保できること。 また、日中でもカーテン、暗幕などで会場が暗くできること。 準備物: マイク等の音響設備、椅子(こどもが座席に座る場合、地べたでも可)	
当日の所要時間 (タイムスケジュール)の目安	【メインプログラム】			【ワークショップ】	
	【前日搬入・舞台をセット】 前日 13:00～16:00 映像素材準備 16:00～18:00 舞台および上映設備設営 【当日】 (メインプログラム: 145分) 7:00 学校到着 担当の先生と打ち合わせ・WS準備 8:40 メインプログラム開始(60分) ※全体の流れ①・② 9:40 休憩(10分) 9:50 WS再開(75分) ※全体の流れ③・④・⑤ 11:15 メインプログラム 終了 上映会場設営・上映リハーサル 12:20 お昼休み			(ワークショップ: 60分) 【映画上映】 (メインプログラム終了後・同日開催) 13:00 ワークショップ開始(5分) ※全体の流れ① 13:05 映画鑑賞(45分) ※全体の流れ② 13:50 休憩(5分) 13:55 ワークショップ再開(25分) ※全体の流れ③④ 14:20 終了 ～18:00 上映機材搬出	
企画のねらい	別添シート(3)を参照				



映画監督と撮影スタッフが撮影と編集を実演してみせます



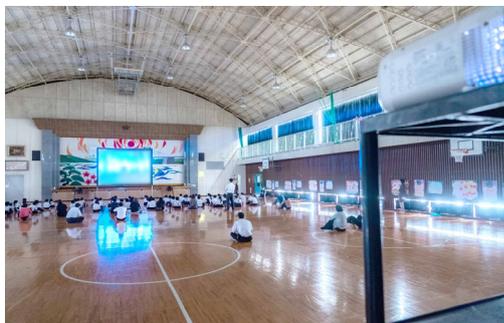
2人～10人の子どもたちが出演し、映画監督の演出で映画撮影を行います

企画に係るビジュアル
イメージ
(舞台の規模や演出が
わかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。



こちらで用意したスクリーンでの映画上映



プロジェクターを体育館後方に設置し、上映します



体育館の窓にカーテン等が無い場合はご相談ください

リンク先	No.1	【公演団体名 こども映画教室 】
学校等における 公演実績	2013年	横浜市教育委員会後援、東京藝術大学大学院映像研究科協力のもと「こども映画教室@ヨコハマ2014」実施(2014年、2015年、2016年も実施)
	2014年	世田谷区奥沢小学校 奥沢体験楽校にて「映画のおもちゃをつくろう！」(課外活動)開催
	2015年	横浜市立新田小学校「こども映画教室@新田小学校」を(総合の時間・国語などの授業で)開催「全国映連第44回 映画大学in今治」にて「映画館と街、子どもと映画」講義・登壇
	2016年6～10月	お茶の水女子大学附属小学校 選択授業にて 選択授業「映画」実施
	2017年～	フランスの国際的映画教育プログラム”Le Cinéma, cent ans de jeunesse(映画100年の青春)”のオフィシャルパートナーとして、同プログラムを日本にて実施 東京国際映画祭主催・東京都共催「TIFFティーンズ映画教室」を企画運営
	2018年～	”Le Cinéma, cent ans de jeunesse”のバリエーションでの上映会“A nous le cinéma!(映画を我らに!)”に参加。映画教育に携わる15カ国以上の学校教育者と交流。 ※2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止(2022年再開)
	2019年	平成30年度国際交流基金海外派遣助成事業として「こども映画教室(映画教室)南米・米国 公演・デモンストレーション」実施 チリのチリ大学において、「映画は学校だ! 映画教育に関する国際シンポジウム」にて講演(諏訪敦彦、土肥悦子) 文化庁「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業-巡回公演-実施 【実施校】C区分:須崎市立新荘小学校/宿毛市立橋上小学校/西条市立三芳小学校 今治市立鴨部小学校/美馬市立江原北小学校/砥部町立広田小学校 独立映画鍋主催「映画教育のススメ~教育における映画の可能性~」に参加(中学生たち含む)
	2020年	文化庁「令和2年度文化芸術による子供育成総合事業-巡回公演-」実施 【実施校】C区分:桜井市初瀬小学校 文化庁「令和2年度子供のための文化芸術体験機会の創出事業」実施 【実施校】横浜市立荏子田小学校/府中市立府中第七小学校 大島町立さくら小学校/足立区立花保小学校 横浜市立下野谷小学校
	2021年	文化庁「令和3年度文化芸術による子供育成総合事業-巡回公演-」実施 【実施校】C区分:神津島村立神津中学校/足立区立花保小学校 いすみ市立浪花小学校 文化庁「令和2年度第3次補正予算事業子供のための文化芸術鑑賞体験支援事業」実施 【実施校】横浜市立依知小学校/金沢市立夕日寺小学校/金沢市立湯涌小学校
	2022年	文化庁「令和4年度文化芸術による子供育成総合事業-巡回公演-」実施中 【実施予定校】C区分:今治市立吉海小学校/雲南市立海潮中学校/五条市立北宇智小学校 曾於市立岩北小学校/佐世保市立三川内中学校/別府市立南立石小学校 鳥取市立青谷中学校 A区分:太子町立山田小学校/新宮市立光洋中学校/阪南市立上荘小学校 大和高田市立陵西小学校/下北山村立下北山小学校 文化庁「令和3年度 補正予算事業 子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業」実施中 【実施予定校】茅野市立北山小学校/足立区立関原小学校

リンク先	No.1	【公演団体名	こども映画教室 】
プログラム全体の流れ	<p>《全体の流れ》</p> <p>【メインプログラム】1回(全体145分 ※うち休憩10分)</p> <p>① 導入・講師紹介・今日すること(10分)</p> <p>② 「映画の中に入ってみよう」(50分)</p> <p>体育館の舞台上にあらかじめ選定したこどもたち(2～10人程度)が児童役として出演するシーンを、プロの映画制作者が演出・撮影・録音し、映画撮影の実演をする。</p> <p>映画監督がこどもたちを演出し、複数のカメラマンが複数台のカメラで、色々な方向から撮影し、録音担当がマイクで録音する撮影風景を、参加者は見て体験する。さらに別途設置したスクリーン(もしくはモニター)には、カメラマンが実際に撮影している映像を映写し、どのような映像が撮られているかリアルタイムに確認し、体験することができる。</p> <p>➡目の前に繰り広げられるものは体育館の舞台上のお芝居だが、カメラで切り取られた映像は違う視点である。これが映画の特長であると、体感してもらう</p> <p>➡日常から映画の場面がどうつくられるのかを体験してもらう</p> <p>休憩(10分)</p> <p>③ 「撮影したシーンを編集してみよう」(45分)</p> <p>カットが割られていることを伝える。映画はカットを重ねてシーンになっていくことを体験する。また映画監督の演出や、撮影の仕方、撮られた映像がまったく違うものになることを体験する。</p> <p>④ 「撮影したものをみんなで観よう」(20分)</p> <p>⑤ 特別講師振り返り・次回の鑑賞ワークショップのお知らせ(10分)</p> <p>【ワークショップ】(80分 ※休憩5分含む)</p> <p>① 「これから鑑賞する映画についてのお話(製作国・出演者など)」(5分)</p> <p>② 「映画鑑賞」: 上映作品『キートンの探偵学入門』(45分/1924年/アメリカ) (45分)</p> <p>持ち込みスクリーンにて上映</p> <p>休憩(5分)</p> <p>③ 鑑賞ワークショップ(20分)</p> <p>メインプログラムとの共通点や映画で気がついたことを講師と対話。 クリエイティブな鑑賞体験についてのお話</p> <p>④ 特別講師まとめ(5分)</p>		

リンク先	No.1	【公演団体名 こども映画教室 】
企画のねらい	<p>①映画制作の現場を体験することで、映画の成り立ちを学ぶ。</p> <p>メインプログラムは「映画の中に入ってみる」。</p> <p>こどもたちを出演者として、映画制作のプロが映画撮影の実演を行う。体育館や視聴覚室など、こどもたちの日常生活空間がカメラで切り取られることで、一気に映画の現場へと変化する。このワクワク感のなかで、こどもたちが出演する映画撮影(1シーン)を実演する。</p> <p>こどもたちは、メインプログラムを通して映画を内側から触れることにより、“現実の世界から映画の場面がどうつくられているか?”を体験することができる。また、映像制作のプロと出会うことによって、将来の芸術家の育成のきっかけをつくることが期待される。</p> <p>②映画づくりは一人ではできないため、チームワークを学ぶ。</p> <p>さらに、映画撮影を行うプロフェッショナルたちがコミュニケーションをとる姿を目の当たりにすることによって、こどもたちは一つの作品や一つの目標に対してどのようにコミュニケーションをとる必要があるのかを知り、コミュニケーション能力の育成も期待できる。</p> <p>③体育館を映画館に変身させる。</p> <p>地域の人たちと共に鑑賞することで、こどもから老人まで楽しめる映画ならではの地域活性ができる。</p> <p>④映画史に残る名作『キートンの探偵学入門』をみんなで鑑賞する。</p> <p>この映画は、無声映画であり、セリフは字幕となるが、アクションやギャグが満載で、低学年のこどもたちでも理解でき、とにかく楽しい作品である。</p> <p>⑤芸術鑑賞能力の向上。</p> <p>メインプログラムで“映画の中に入ったこどもたち”は、普段あまり見ないような映画史上の名作を、自分の身近なものとして興味をもって鑑賞することだろう。</p> <p>こうして、この企画がこどもたちの芸術鑑賞能力の向上につながることを目指したい。</p> <p>⑥クリエイティブな鑑賞体験や、多角的な発想力の育成。</p> <p>また、一般的な「物語を語る(ナラティブな)映画」の鑑賞体験の楽しさだけでなく、映像や音など、一見物語と関係のない部分でも映画を楽しく鑑賞できる気づきを与え、自分たちで映画の面白さを見出すクリエイティブな鑑賞体験や、多角的な発想力の育成の向上につなげることを目指す。</p> <p>⑦自己肯定感を高める。</p> <p>また、映画という芸術には、絵画や小説、演劇などの他の芸術と違い、「カメラに映ってしまう」という側面がある。そこに映っているものは、目の前に存在する何かである。つまりそれは、他のものと取り替えのきかない、かけがえのない唯一のもの”代替不可能“なもの、であるといえる。この特徴を利用し、本企画を開催することで、「自分はこれでいい」・「私はここにいていいんだ」などと、参加するこどもたちの自己肯定感を高めることも期待される。</p>	

令和5年度「文化芸術による子供の育成事業-巡回公演事業-」

出演者名簿（予定）

A区分

企画名：「映画のなかに入ろう！」

～こどもたちが映画に出演！撮影や編集の実演と映画鑑賞～

出演者		12名					
役職	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
1	映画監督（特別講師）	諏訪敦彦	萩生田宏治	五十嵐耕平	深田隆之	瀬田なつき	早川千絵
2	エグゼクティブプロデューサー	土肥悦子					山本英
3	映像制作スタッフ	山本大輔					太田達成
4	映像制作スタッフ	飯岡幸子					
5	映像制作スタッフ	西原孝至					
6	映像制作スタッフ	奥定正掌					
7	映像制作スタッフ	大川景子					
8	映像制作スタッフ	藤田開					
9	映像制作スタッフ	西後知春					
10	チーフテクニカルマネージャー	酒井貴史					
11	テクニカルマネージャー	御子柴和郎					
12	プロデューサー	浅見孟					

※1

※1 巡回スケジュールにより1名を派遣